

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月1日

事業所名 しあわせ駅 山内

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		スペースは十分である。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3		配置基準は満たしているが、個別対応が必要な児童の利用が多い日は、対応しやすい人数を確保する必要がある。今後、工夫を重ね、改善していきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	今のところ車椅子を使用する児童が居ないが、必要に応じて高さのあるところには台を置いたりするなどして対応している。	今後、さらに改善していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		全職員でできる限り掃除を行い、清潔で過ごしやすい環境になるよう努めている。	まだ行き届いていない部分もあるので、午前中の時間を活用し、清潔に保てるようさらに努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	その都度行っている。	目標設定と振り返りを今後も行っていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			今後も保護者の意見を取り入れ業務改善ができるよう努めていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3	ホームページにて公開している。	お便りなどで公開していきたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		現在、検討中である。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	研修などがある際は積極的に参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		全職員で確認している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		個々に合わせたアセスメントツールを今後も使用していく。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1	具体的な支援内容を設定するよう心がけている。	新しい職員にも周知徹底していきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		日誌を書く際に、支援計画と照らし合わせて記入するよう努めている。また、支援計画をスタッフで共有し、個々に合わせた支援を心がけている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		全職員で意見を出し合っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		全職員で意見を出し合っている。	今後も支援内容がマンネリ化しないよう職員同士意見を出し合っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	6		アセスメント内容を確認しながら個々に合わせた支援を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		今後、より明確な役割分担を行ってスムーズに活動できるようにしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		必ず、その日の支援終了時に振り返りを行なうことは難しいが、朝の時間や日誌を書く時間など工夫して時間を確保し共有している。今後も工夫を重ね、改善をしていきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日誌を書く際に、支援計画と照らし合わせて記入している。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的にモニタリングを行ない見直しの必要性の判断もできている。	今後も全職員で共有していく。	
関係機関	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		ふさわしい者が参画するよう努めている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	3		今後、強化していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	5		現在は対象児童が居ないが必要に応じて対応していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	5	該当する児童がいないが、何かあった時の為に連絡体制は整えている。	必要に応じて見直し、対応していきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	報告会に参加している。	今後も積極的に参加出来るよう努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	報告会に参加している。	今後も積極的に参加出来るよう努める。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5		今後、研修の機会があれば積極的に参加していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4		コロナが落ち着いたら、交流する機会を設けていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5		今後、参加の機会を作っていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時に話す機会を設けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	1	5		今後、検討していきたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			今後も契約時に必ず書面、口頭での丁寧な説明を行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		支援内容の説明を行ない、同意を得るよう徹底して行なっている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			保護者にも寄り添った支援を行うよう心がける。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4		コロナが落ち着いたら、必要に応じて機会を設けていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			必要に応じて話し合いを設け、今後もスムーズに対応できるよう心がけている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2		定期的にお便りなどで発信できるように今後も努めていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		シュレッダー等を用い、個人情報の取り扱いに関しても十分に注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		わかりやすく伝えるように心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		コロナが落ち着いたら検討していきたい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		今後も定期的に避難訓練を実施していく。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		契約時、その都度、必ず確認している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	該当児童は居ないが職員内で把握している。	医師ではなく保護者の指示で対応している。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	ヒヤリハットがあった場合はその都度、職員で話し合いをしている。	今後も危険な行為や事が起こらないように日々緊張感を持つよう心がけている。ヒヤリハット事例集は、作成中である。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		確認合っている。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		よい方法を考えながらその都度、話し合っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。